

前指導要領では、教科ごとに体系化された内容を指導(教師主体の授業)できればよかった。だが、新学習指導要領は、教育課程全体で子供にどういった力を育むのか(子供が主体的に学ぶ)を前提に教科指導の在り方が変わった。すなわち、子供が教科内容を知っているだけでなく、その教科学びを通して何ができるかの指導へ転換することを求めている。

## 1 教師主体の授業

### (1) 教師が話し続けるデメリット

知っていることを教えたいという意識や、受験があることが念頭にあるため、説明調の授業が多い。教科書の内容を教える、覚えさせることに特化した従来型の授業が続き、子供の主体的に学ぶ力が育ちにくい。

### (2) 子供が育たない

教師主体の授業は、教師がよく話す授業だ。そのため子供が受け身になる場合が多い。そのため、次のような状況が生まれやすい

#### ①単語を話す子供

教師が話すことが多いので、子供は教師から聞かれたことを単語で話す。教師は、教科内容について発問し、単語でも教科内容に子供が触れてくれば、教師は「待っていました」の論理ですぐに指名をする。単語のみを話しやすい子供となる。言語活動もないような授業だ。

#### ②教師対子供の構図

教師が質問をすると、子供は教師に答える。いつも教師を子供は頼る。教師がいないと何も始まらないような授業となる。

#### ③生きる力が育ちにくい

学習は、一人ではできない。子供たちは仲間と学習をする中で、学ぶ上でのマナーや具体的な動き方を学ぶ。すなわち生き方を学ぶ。教師主導の授業では、こうした視点より教科内容を学部だけの授業となりやすい。生きる力が身に付きにくい。

## 2 学び方と育ち(授業スタンダードとの関連)

子供主体の授業では、授業のマナー(社会生活でのマナー)が育つ。

### ①話の仕方が身に付く(授業スタンダード ク 話す場所4か所 ⑧言語わざ)

- ・自席から出る ・前後左右 ・発言リレー ・言語わざを使う ・結論→根拠と理由
- ・「話していいですか」「ですよね。」「ここまで分かりますか」「いいですか」

### ②手の上げ方が身に付く(スタンダード キ 立場を添え挙手)

- ・「似ています」「付け足します」「他にもあります」「比べて言います」

### ③反応の仕方が身に付く(授業スタンダードケ 聞き方(反応))

- ・発表者を見る ・「わかりました」 ・うなづく、拍手 ・友の意見をメモ

### ④主体的な授業の運営者として育つ(授業スタンダードエ 学習リーダー)

- ・学習7段階での司会進行 ・一人もしくは交代で・まとめや振り返りの総括

### ⑤自分の考えを十分に書ける(スタンダード ⑰まとめブツブツタイム ⑲振り返りブツブツタイム)

- ・自分の言葉で書ける ・分ったこと ・友達から学んだこと ・新たにやってみたいことを書ける

### ⑥対話的な学びが出来る(スタンダード ⑫班学習 ⑬学び合い1「単純意見交換」⑭学び合い2「考察」)

- ・ノート展覧会や学び合い1「単純意見交換、学び合い合い2「考察」で意見交換ができる

### ⑦仲間を支援できる(スタンダード ⑨自力解決可否2回の確認)

- ・一度目の教え合い ・写す ・聞く ・二度目の確認

### ⑧子供自身が授業を振り返る(スタンダード⑳ミニ授業反省会)

成果・課題・改善策 アウトプット・教え合い・振り返り インタビュー